

『冒険学校まふゆのキャンプ2025』報告

～冒険・探検 2度目の村長～

鈴木風馬（自然文化誌研究会 運営委員）

2025年12月26日～12月28日の3日間、小菅村「清水バンガロー」で開催した「冒険学校 まふゆのキャンプ2025」の報告をします。

昨年に引き続き2回目の「村長」ということで、再び子どもたちとがっつり向き合うことに挑戦しました。去年よりも参加者が多く、初参加の子もいて、何をしようかなあと思っていましたが、INCH50周年記念の一連のイベントで、「INCHと冒険探検部」の理念の片鱗を覗くことができたので、「冒険・探検」できるようなことを一つやってみようなんて考えながら参加しました。キャンプの運営メンバーの中でも、これまでやってきたプログラムの繰り返しではなく、ちょっと新しいことをという空気もあって、焚き火、餅つき、野鳥観察、星空といったプログラムに加えて、今回は「猟友会の猟師さんに来てもらって、話を聞いたり罠を見せてもらう」、「餅つきに村のベテランをお招きしてお話を聞く」、「仏舍利塔を探検する」といった新しい試みもやってみました。1日目の午後から早速、村の猟友会の小竹隼人さんに来てもらい、村では狩猟する動物はどんな種類がいるとか、鉄砲と罠の使い分けとか、熊は県の特別許可で狩猟するとか、獲ったら報奨金が出るから、半分趣味半分仕事の人が多いなど、色々聞けて勉強になるし、子どもたちも興味津々だったのがとても印象的でした。罠の実演では、鹿を獲るためのワイヤーを使った罠を見せてもらって、使い方、原理、かかったらどうなるか体験した子もいて、なかなか面白いプログラムになったと思います。

1日目の夜に、いつもの通り「星空」と「ナイトハイク」を用意していましたが、いつのまにか「ナイトハイク」ではなく「おばけさがし」になっていて、子どもたちの発想力を甘くみていたなと感じました。

2日目は、午前中は野鳥観察、昼前から餅つき、午後は仏舍利塔を見に行こうということで、盛りだくさんの1日でした。まず野鳥観察では、シジュウカラやコガラ、ホオジロ、モズ、トンビなどの鳥を探すだけではなく、ヤママユガの繭を見つけたり、カラスウリをとったり、講師の加藤源久さんにガビチョウとウグイスの巣を頂いたりしました。見られた鳥の種類は少なかったけど、ジョウビタキのことを小菅では背中の中羽の白い模様から「だんごしゅい」（団子背負い）というとか、昔は水たまりが凍ったらスケートをしたとか、ヤドリギの実をじっくり観察するなど、こちらも色々聞けて、毎回ながら勉強になるなあと思います。

キャンプ場に戻って、餅つきをしているところに、スペシャルゲストとして守屋アキコさんをお呼びして、囲炉裏でお餅を食べながらおしゃべりをしました。熟した渋柿を持ってきていただいて、「焚き火で芯まで温めるとおいしい」とおっしゃるので、じっくり焼いてみるとこれが渋くない！皮を剥いてスプーンでくり抜いて食べると甘くておいしいスイーツになって感動しました。アキコさんも餅つきはもちろん大ベテランなので、ちぎり餅ならこのくらい柔らかいのがいいが、のし餅にするなら水は少なく、蒸すときと返す人の腕で、硬めに仕上げるというとか、返す時は臼と餅との間に手を差し込んで剥がしながらやると良いとか、鏡餅は丸く大福を包むように整えていって、最後に横からちぎると綺麗にできるなど、なんだか肝心なところを聞き忘れたかもしれない気もしますが、なかなか面白いお話が聞けました。



餅を食べ終えて、今度は子どもたちを焚き付けて「仏舍利塔」へ行きました。「山の上にナゾの白い塔があるらしい」ということで、余沢地区から林道へ入り、登山口までは車で行き、そこからは歩きでギリギリ車が通れる道幅の登り坂を1時間ほどかけてゆっくり進みます。途中にはコンクリートで固められた基礎みたいなものがあったり、橋には水タンクとポンプがあったり、中腹の開けたところには巨大な「南無妙法蓮華經」と書かれた石碑と日本山妙法寺と書かれた建物のあるところもあり、行くまでの道も見どころが多くて、登るのはつらいけどなかなか面白い場所でした。山頂が近づくと、木々の間から覗く青空が一部だけ、明らかに雲ではない白さが見えて、坂道を登り切ると美しい白亜の塔に、仏像が4体納められた建物が山頂に建っていました。仏像は全てお釈迦さまで、金色に塗られていて、姿勢が違

うのだけど、その場だけではその意味まではわかりませんでした。

帰り道、行きで通った橋のポンプのところで車が登ってきて、避けると止まって人が降りてきたので、話を聞くと上の石碑のところの建物(お寺)の住職さんで、これから年越しのため帰るところだとおっしゃっていました。現役に見えたポンプも上のお寺に水を送るためのものとのことで、スイッチを入れるために止まったようだった。帰りはスタスタ降りて 40 分、子どもたちに感想を聞くと、「すごかった」「綺麗だった」「つかれた」「ハリボテじゃん」など、自分なりに達成感を感じたり、発見をしてきている感じがして、行ってよかったなと思いました。

3 日目はもう帰るだけですが、帰る準備をした子たちとモルックをしたり、小学生以来の「はないちもんめ」をやったりして、とても楽しかったです。

今回のキャンプは、子どもたちと一緒に「冒険」をして、「発見」に「感動」することが、とっても楽しくて仕方がなかったです。これからもまだまだ見つけてない「発見」と「感動」を探すように、「冒険」して行こう、と思えたキャンプでした。

【スタッフの感想】

① 松井咲希さん(高校3年生・元参加者)

小学生の頃、何も考えずに楽しんでた「キャンプ」は、スタッフとして関わる立場になった今、少し違って感じた。今回は特に、教育の道に進むと決めてからの参加だったからそう感じたのかもしれない。参加者として過ごしていた頃には気づかなかったことが、スタッフという立場になって初めて目に入るようになった。今回のキャンプで特に印象に残ったのは、温泉の時間だった。参加者だった頃、風呂上がりにスタッフから髪の手入れで点数をつけられ、何度もドライヤーをかけ直しに戻されたことがある。当時は正直、面倒くさいとは思っていなかったが、スタッフとして参加した今、そのやり取りは子どもたちの体調などを気遣った行動だったのだと初めて気づいた。実際に今回も、なかなか髪を乾かそうとしない子がいたため、当時と同じように点数をつける方法を取り入れてみた。すると、嫌がっていた子も楽しそうに乾かし、自然と全員が終えることができた。最後には子どもたちの方から「何点？」と聞いてきて思わず驚いた。この出来事を通して、子どもに対してどのように関わるかの難しさを感じた。参加者だった頃は気づかなかったが、何気ない時間にも多くの工夫があったのだと、スタッフとして実感した。相手を動かすために指示を出すのではなく、子ども自身がやりたいと思える関わり方をこれからも意識していきたい。



② 加藤奈々子さん(東京学芸大学4年生)

学生として参加する最後のキャンプは、これまでで一番楽しいキャンプとなりました。これまでのキャンプでは、周りのスタッフのようにうまく動けたらいいなと憧れながらも、自分から行動できず、反省することが多くありました。しかし今回は、「自分で考えて動いてみよう」と意識し、子どもたちの様子を気かけながら、自分なりに考えて行動できた場面が増えたと感じています。

プログラムの中では、仏舎利塔を見に行ったことが強く印象に残っています。仏舎利塔がどのようなものか分からないまま、片道一時間以上かけて山道を登り、白く大きな塔が目の前に現れたとき、大きな感動を覚えました。まるで日常とは違う世界への入り口を見つけたような気持ちになり、心からわくわくしたのを覚えています。冒険のような体験ができたことも、このキャンプの大きな魅力でした。

また、今回のキャンプで自分が変わったと感じたことは、子どもたちの前で思い切りふざけ、全力で楽しめたことです。これまで「優しく見守る」接し方をしていましたが、今回は子どもが引くほど本気でふざけてみました。すると、子どもたちは以前よりも楽しそうに関わってくれるようになりました。大人が全力で楽しむ姿や熱量は、子どもたちにしっかり伝わるのだと実感しました。子どもと一緒に楽しむことの大切さを、改めて学んだキャンプでした。

来年からは小学校教員として歩み始めますが、ぜひまたこのキャンプに参加したいと思っています。学生として、そして教員として経験を重ねた自分が、次はどのような視点で子どもと関われるのか、今から楽しみです。

【参加者の感想】

①安倍隼さん（小学 5 年生）

今回のキャンプで楽しかったときは、1 日経てば色んなものが凍っていたこと。夏に楽しかった川には入れなかったけど楽しかったです。

②安倍健さん（中学 1 年生）

冬のキャンプ～米炊き編～

自分は初めて冬のキャンプに参加しました。そのなかで、夏同様、米を炊きました。

米を釜で炊くのは夜の二回なので（確かそうだったはず）それを担当しました。

一回目は芯が残りとても食べられるようなものではありません。その際反省し翌日はラストなので汚名返上といえるような気概を持ちました。

自分は翌日、仏舎利塔に行くため米を炊き始めるギリギリに帰ってくることがわかり、炊き始めるのは 4:30 なのに、みんなが餅つきしてる最中、自分は米炊く用の木を切り始めました。

仏舎利塔から帰ったらなんと炊く時間の 10 分前でして、実に自分をほめました。その後、前日の反省を活かし、浸水を長くし、責任感に耐えながら、遊び、美味しいものを食べてるみんなを横目に黙々とやっており、自分としてはすごいと思いました。

その際、スタッフさんたちが、自分が人にちょっかいや、釜で焼きいもを熱してる際にカバーしてもらってありがたかったです。

そして、米ができて、炊き上がりふたをとり、中を確認しました。

真っ白であり、多少茶色目に焦げがありましたがとてもよく、その後食べてもらうとすごく好評でした。

～星空観察とその他編～

自分はこのキャンプの際に星空観察に二回も行きました。そもそも夏のキャンプの際に、ダニエルのイチオンが冬の星空でした。なので自分は「なにがあってもいい」と決めてました。

スタッフさんの車のなかでふざけ、ヘリポートに行きました。自分は天体にそれほど知識があるわけではないですが、プラネタリウムの使用料が無駄とおもうほど、星が黒い空から吹き出るようにあり、それをみながらフウマのわかりやすい解説を聞き、一息したあと 66 億の天体望遠鏡で有名な星をピントをあわせていくつも見せてくれました。

よく考えると普通の学生ならば夢のような話です。おかげで、夜、東京でも星を探したりしますが、やはり見えません。なのでできたら夏でも冬でも何年先でももう一回見たいです。

朝テントからでると、なんとニット帽が凍っておりそして髪の毛を触ると痛くて、「あれ、凍ってない?」と思い驚きました。ふと温度計を見るとマイナス 5 度でした。東京や平野がいかに暖かいかを身を持って知り、東京の寒さはかわいくて猫じゃないかと思いました。

この 2 回目のキャンプで夏のキャンプで話さなかった参加者やスタッフさんと会話できてよかったです。ありがとうございました。



←スタッフの佐々木正久さんの YouTube「まー君のナチュラルフ」で、「冒険学校まふゆのキャンプ」の活動の様子が観られます！！（チャンネル登録よろしくです）

